

学会賞・学術賞 受賞者講演会

■ 日本第四紀学会では、第四紀学の発展に貢献し顕著な業績をあげ、また学会活動に貢献した会員に授与される「学会賞」、第四紀学に貢献した優れた学術業績をあげた会員に授与される「学術賞」を設けており、2009年大会において今年度の受賞者を決定しました。

■ 受賞者による第1回受賞記念講演会を下記のとおり開催します。非会員の方のご来場も歓迎します。

■ また、同日同じ会場にて日本第四紀学会主催のシンポジウム「第四紀の開始期の環境変動とテクトニクス：第四紀の新定義を検証する」が開催されます。あわせてご参加ください。

お問合せ：日本第四紀学会事務局 (Tel: 03-5291-6231 ; daiyonki@shunkosha.com)

2010年1月31日 [日] 13:00-14:30 参加費無料 事前登録不要

早稲田大学 2 2 号館

山手線高田馬場駅よりバス-下車徒歩 5 分

東京メトロ東西線早稲田駅下車徒歩 5 分

- ・ 13:00~13:05 遠藤邦彦会長 あいさつ
- ・ 13:05~13:45 齋藤文紀氏 (学術賞受賞者)
- ・ 13:45~14:25 町田 洋氏 (学会賞受賞者)



陸と海の境界域における堆積作用と環境変遷に関する研究

齋藤文紀氏

独立行政法人産業技術総合研究所地質情報研究部門上席研究員。京都大学理学部卒。理学博士。沿岸域の堆積作用や地層形成過程に関して、日本周辺及びアジアの陸棚域から沖積平野を対象に研究を行ってきた。IGCP-475「モンスーン・アジア太平洋地域のデルタ」共同代表。CCOP DelSEAプロジェクト代表。INQUA日本国内委員会委員長。華東師範大学・中国海洋大学客座教授。



日本列島と周辺域のテフラを基礎とした第四紀編年：回顧と展望

町田 洋氏 (日本第四紀学会前会長)

東京都立大学名誉教授。理学博士。編年学的研究をめざし、東京大学の院生時代「最近数十年～数百年間の山地斜面と谷の浸食史」に従事(博士論文)。東京都立大学に就職後、「時代を次第に遡りながらテフラを用いた火山の発達史」(諸分野にまたがる第四紀学的手法の有能性を感じる)、「テフロクロロジーによる南関東平野地域の後期更新世～中期更新世の発達史」(海面変化、地殻変動、気候変化の解説)。この一連の研究から「広域に分布するテフラの研究」が生まれる(新井房夫さんと共同研究)。最近では第四紀学の体系化、日本列島の第四紀地形発達のみとめを通じ「テフラ研究適用分野の拡大」、普及などをめざしている。



会場案内

<同日開催 シンポジウム 14:30~18:00 >

第四紀の開始期の環境変動とテクトニクス —— 第四紀の新定義を検証する

- ・ 趣旨説明—特に第四紀下限の変更について (奥村晃史)
- ・ 第四紀始まりの世界的な気候寒冷化とは何か：酸素同位体比変動から (大場忠道)
- ・ パナマ地峡の成立と世界的な気候寒冷化の影響：秋田と沖縄を例にして (佐藤時幸)
- ・ 人類最初の出アフリカ [Out of Africa] と東方アジアへの拡散問題 (松浦秀治)
- ・ 植物化石群の変遷からみた第四紀の重要層準：気候変動との関連で (百原 新)
- ・ 哺乳動物化石群の変遷からみた陸橋の形成時期 (樽野博幸)
- ・ 鮮新—前期更新世の広域テフラ層による時間指標層としての確度と分解能 (里口保文)
- ・ 西南日本における鮮新—更新世内陸盆地発達史の再検討 (水野清秀)